

2025 年 6 月 23 日

学校法人三幸学園
千葉医療秘書&IT 専門学校
校長 高橋 一博 殿

学校関係者評価委員会
委員長 市川 静夫

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 市川 静夫 （社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 顧問）
- ② 有賀 紗奈 （2024 年度卒業生）
- ③ 佐藤 昂大 （飛鳥未来高等学校 千葉キャンパス 主幹教諭）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 23 日（会場 千葉医療秘書&IT 専門学校 601 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 千葉医療秘書&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 三浦 明子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 市川 静夫

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 退学率低減

2024年度退学率は全体で3.4%と2023年度の7%から大幅に低減した。その要因としては、担任を始め教職員が生徒と関わる機会を増やすことと2つ目に保護者様との連携、3つ目に授業を担当する教科担当より医療業界やIT業界の魅力を伝えることができたことがあげられる。2025年度は、退学率の更なる低減とともに生徒の満足度向上を目指していく。

(2) 資格取得率向上

検定ウィークの実施、各教科担当の勉強会等の検定対策を講じることにより資格取得率が昨年度に比べ向上した。一方で合格率が下がってしまった資格もあるため、2025年度は、振り返りを元に資格・検定対策の方向性や勉強時間の確保などの対策を引き続き実施していき、更なる資格取得率の向上を目指す。

(3) 就職の質向上

生徒自身が就職したいと希望する就職先に就くだけでなく、就職先で活躍できるよう早期から就職に向けた対策(就職決起会、模擬面接など)を実施。その結果、多くの生徒が希望した就職先への就職を決めることができた。2025年度は、さらに就職先で長く活躍できる人材を育成する取り組みを実施したい。

(4) 卒業生との関わり強化

2024年度は、オープンキャンパスや行事で卒業生をお招きし、業界の話や実際の業務など医療業界、WEB・IT業界の生の意見を聞くことができた。2025年度に関しては今以上に医療業界やWEB・IT業界への関わりを増やすとともに、行事やイベントを通じて現場で活躍している卒業生との関わりを増やしていく。

(5) 現場との関係性構築

2024年度は医療業界、WEB・IT業界へ実習巡回等で訪問し、業界の現状や課題、求めている人材等について話す機会を増やした。それにより業界との関係性構築の基盤ができたと感じている。2025年度に関しては、医療業界やWEB・IT業界への新規開拓や業界の困りごとやイベント等の協力など産学連携を強化していきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について)

業界の魅力を伝えるためにはまずは実習等を通じて病院を知ってもらうことが重要であり、それがモチベーションの維持・向上、現場の実際を知ることにつながる。受付業務においては患者様との接客・対話能力が求められるので、接客業をアルバイトで行っていると手際よくこなせることもある。

・佐藤委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について)

通信制高校では通い方が様々なため登校する頻度は異なるが、専門学校同様、定期的に本人には連絡を入れている。その上で連絡がとれているかどうかを可視化し退学率低減に取り組んでいる。また、保護者との連携は保護者面談や定期連絡の機会を活用し、「孤立させない」関係性づくり(家庭・学校・本人の三者連携)が必要である。

・有賀委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について)

資格取得率向上の要因は教職員による授業後の質疑応答、勉強の取り組み方の教授により、やる気や理解度が上がり資格取得に繋がった。また、在学中にビジネスマナーの授業で社会人としてのマナーを学んだが、卒業後の実体験を通じて、現実社会で必要なマナーへの理解を深める必要があると感じた。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・学校の育成人材像と医療、WEB・IT 業界の求められる人物像は、時代や状況によって求められる人物像が変化するため業界のニーズに沿っていないことがあると感じる。

② 今後の改善方策

・業界の関係者との意見交換や現場見学をすることで業界のニーズや動向に常にアンテナを張り、授業等に反映させていく。

③ 特記事項

・学校目標、生徒指導においての心得を視覚化し、全教職員への浸透を図っている。
・入学後に生徒面談を実施し、気になる生徒の保護者へ情報共有することで信頼関係を構築している。
・業界関係者とのコミュニケーションを積極的に図り、業界のニーズを把握する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・市川委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について）
「挨拶ができる人材」「コミュニケーション能力がある人材」「学ぶ姿勢がある人材」「質問に対してのレスポンス速度が優れている人材」「何事も吸収しようとする人材」が求められている。
・佐藤委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）
通信制高校の生徒の就職については、入社後のミスマッチ防止のため会社見学に行き、一緒に働く社員や職場環境を知るように指導している。教職員も就職先を訪問し、できる限り就職先のニーズを把握するよう努めている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・業務において SankoGate(学校から生徒への連絡ツール)や Googlechat などの活用はできているが、業務の効率化までには至っていない。

② 今後の改善方策

・活用しているシステムがどのように活かせるのかを定期的に職員会議等の場で検証していく。

③ 特記事項

・年3回の全教職員会議を実施したため、運営方針の浸透・情報共有を行っている。

・教職員間に関しては Teams を導入し、連絡や伝達を一括で行うことができるようになり、スムーズな情報共有ができるようになった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について)

人数が多くなれば連携が難しくなるが、役職者とのミーティング内容をノートへ記入し回覧という形で職員へ共有を行っている。また、クジラメールを使用し電子カルテから院内メールで全職員へ一斉送信を行っている。

・佐藤委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について)

情報システムを活用することは業務の効率化につながる反面、対面のコミュニケーションが減っていることへの危機感を感じている。情報システムの活用と対面を両立していきたい。

・築瀬さん

情報システムが便利なので対面でのコミュニケーションが減っていったが、デジタルと対面のコミュニケーションを上手く使い分けていくことが大切である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・多様化する生徒に対してのコミュニケーション能力、問題解決力向上が課題。
- ・教育に関する統一のマニュアルは存在しているが各担任による指導の個人差が見られ、教職員の育成が課題。
- ・例えば、社会人育成の場としてコミュニケーション能力、礼儀、言葉遣いなど人間力を醸成させる指導の向上等。
- ・関連分野との連携強化が課題。
- ・ICTを活用した教育活動に関する知識、経験不足。

② 今後の改善方策

- ・目指す資格において全教職員でチームを編成し、指導状況の共有や指導の統一を図る。
- ・教育の質を担保できるよう、職員会議や研修で認識を統一する。
- ・様々なデータから、学校内・個々における課題を改善させるため有効活用する。
- ・生徒、教職員の業界理解向上のため、現場見学の機会を設定していく。
- ・メディア授業の活用における教職員のITリテラシー向上と取り組み事例を今後検討していく。

③ 特記事項

- ・人材育成として OJT 研修を定期的実施している。
- ・授業で現場の話を聞くことで、働いた時のイメージがしやすいため卒業生や業界関係者の講話を積極的に行っていきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について)

実習では、患者様と接する機会を多く設けている。患者様とのコミュニケーションをうまくできる実習生とそうではない実習生というが、それ自体がよい経験になるはずである。また、質問をできない実習生やおとなしい実習生、挨拶ができない実習生も多くいる。挨拶やコミュニケーションを積極的にとっていくことで成長につながると思う。

- ・有賀委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について)

今の勤務先では教育担当はついてはいないが、こちらの質問したことに対して的確なアドバイスをいただけるのが嬉しい。アドバイスいただいたことはメモし、今後活かしていきたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・生徒と向き合える時間の確保。
- ・生徒、保護者との信頼関係構築。
- ・卒業生の就職後の状況把握。

② 今後の改善方策

- ・各種生徒データの有効活用。
- ・業務効率化により、生徒と向き合う時間を確保する。
- ・業界研究を行い、生徒への情報提供を実施。
- ・企業様との関係性を深め、学校教育にご理解をいただくことで関係性を築き、卒業生情報はもちろん早期離職とならぬよう連携を強化していく。
- ・同窓会の実施及び同窓会委員の選出により、卒業生とのつながりの強化を図る。

③ 特記事項

- ・資格取得率向上に向けては関連する教科担当が連携をとり、多くの教員からアプローチしている。また、検定ウィークを実施するなどの取組みを行っている。
- ・集団生活になじめない学生も増えてきたのでカウンセラーを設置し、相談しやすい環境を作っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・市川委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）
学校の退学率は、病院でいえば離職率に相当する。世代により職員のキャラクターや求められていることも変わりつつある。職員の求めを可能な限り取り入れつつ対応している。今は時間を大切にする職員が多いように感じる。重要なのは日ごろの様子を把握し、少しでも早く対処することにあると思う。
- ・有賀委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について）
在学中、教員との距離が近いので相談ができる環境が整っていたと感じている。就職後、相談や情報共有する場がないので、同窓会を活用して卒業生とのつながりを強化したい。
- ・築瀬さん（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）
教員が答えを言ってしまうケースが多く、生徒の思考力が発達しない懸念がある。就職した後に指示待ちにならないように自ら考え動ける人材を育成していく必要がある。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・ボランティア等の積極的な参加。
- ・卒業生の就職後の学びの場や情報交換の場が必要。
- ・様々な奨学金が整備され学ぶ環境の担保ができたとしても、生徒自身の学ぶ意欲の継続させる方法。
- ・生徒を取り巻く環境（実習先・就職先・保護者・卒業生など）とのネットワーク作り。
- ・保護者の働き方が多様になり、就業時間内での連絡が取れず、教職員の時間外労働時間の増加。

② 今後の改善方策

- ・医療機関、ボランティア活動団体との連携。
- ・同窓会を活用し、研修や情報交換の場を設ける。
- ・奨学金貸与者に対して、現在の置かれている環境を十分に理解させ勉学に励むよう指導する。
- ・スクルを導入し、保護者との連絡をスムーズに行えるようにする。

③ 特記事項

- ・カウンセラーの設置、学生の希望により定期的に話をするができる環境がある。
- ・千葉県専修学校各種学校協会主催「千葉県仕事の学び場」事業（専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン）への参画。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・佐藤委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）
飛鳥未来高校では卒業生との交流を定期的には実施していないが、先日、卒業生 2 名に在校生へ向けて講話をしていただいた。生徒達へ良い影響を与えていたので継続していきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・生徒の職業イメージ醸成に向けた学外実習（現場体験等）を行うために実習先との実習内容等の連携が必要。
- ・災害を想定した避難訓練の実施。ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化が課題である。
- ・備蓄品や避難グッズなどの準備が必要。

② 今後の改善方策

- ・業界講話や現場見学など、産学連携を強化していく。
- ・生徒、教職員に対する避難訓練を実施し、安全面への意識を高めていく。
- ・避難経路の確保については常日頃から点検を行い、ホームルームにて生徒へ避難訓練の意義や必要性を伝達する。

③ 特記事項

- ・防災マニュアルの定期的確認と周知。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学生募集活動は適切に行っているが、卒業後の就職先についてより具体的なイメージを伝えていく必要がある。
- ・18歳人口の減少に伴い、医療、IT業界について興味をもってもらうような仕掛けが必要。
- ・留学生に対して、わかりやすい広報ツールの作成。

② 今後の改善方策

- ・首都圏地区の学生募集をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、本校の強み、他校との差別化を明確に打ち出す。
- ・医療、WEB・IT業界に関わる仕事を知ってもらい、業界の魅力を感じてもらう工夫を実施。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・佐藤委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について）
広報活動において、高校生がやりたいことを叶えていける環境整備をする工夫をしている。2025年度は新しく韓国語コースの設置を行ったが、大人気のコースになっているので今後も高校生の関心があるものを見極めていく必要がある。
- ・築瀬さん（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について）
SNSなどのデジタルツールを使用し医療事務の魅力を高校生に知っていただけるような取り組みをしていく必要がある。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。
- ・広報等でのSNSの発信内容には十分留意する必要がある。
- ・生徒の SNS のリテラシー向上。

② 今後の改善方策

- ・現時点で問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行う必要がある。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・市川委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について）

電話口で病名や個人情報を教えてほしいと言われることがあるが、個人情報保護のために対面で身分を証明できるものが無ければ教えていない。また、パソコンの画面を付けたまま離席をしないように徹底して指導している。

- ・築瀬さん（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）

SNS は手軽に投稿できる分、取り扱いには気を付けていかなければならないと感じている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・学校で学んでいることをインプットすることはできているが、それを活かしたアウトプットができていない。
- ・地域を巻き込んだ社会貢献活動、地域貢献活動ができていない。

② 今後の改善方策

- ・地域の方との交流会の実施（地域の方を対象としたパソコン教室や生活習慣病予防のイベントなど）。
- ・業界やボランティア団体との連携。

③ 特記事項

- ・学校側から積極的に提案を行うなど、まずは実施してみるというスタンスも必要と感じている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・市川委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）
袖ヶ浦市では、数か月に 1 回近隣清掃のボランティア活動を実施している。地域交流を行うと共に、イベントの際には地域の方向けに無料で講演が行われている
- ・佐藤委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について）
近隣の新宿小学校での放課後ボランティアへ参加している。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・受入れの際の手続き、授業運営、学校運営シミュレーションのブラッシュアップが必要。
- ・留学ビザ更新の手続き対応が属人化している。
- ・卒業後の進路の選択肢が限られている。

② 今後の改善方策

- ・留学生が入学した際の、受入チェック体制(手続き方法、書類等の抜け漏れがないように)を準備しておく。
- ・留学ビザ等の手続き対応ができる教員を増やす。
- ・卒業後の進路の選択肢を増やすために、外国人採用に力を入れている企業との連携を強化する。
- ・留学生向けのガイダンス(日々の生活指導等)や日本語能力向上の支援体制を強化する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科について)
病院での外国人の看護師、介護士等の採用実績は数件ある。今後も外国人の医療事務職採用は検討の余地がある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2024年度は、コミュニケーションをとる機会を増やし、退学率低減や資格取得率向上など一定の成果を得ることができた。

入学前、在学中、卒業後のそれぞれの場面におけるギャップを最小化することが、学校が選ばれより良い学びの場所として学校が機能し、より個々人に適合した就職先を選択し、長く業界で活躍することにつながると考えられる。そのためには、学校単独ではなく、業界団体、企業、行政、卒業生等との連携が必要不可欠であり、それぞれの立場からの意見や見解を聞き取り、連携を深めていくことで、より充実した学びの機会の提供及びより業界に寄与できる学校運営につなげていきたい。